

第5回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

特別企画2 概要

企画名	包括的に見えてしまう、多職種が連携してしまう、今、話題の『見える事例検討会』
目的	厚生労働省の認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）に代表されるように、認知症に対する取り組みが国をあげて推進されている。しかし、現場で認知症高齢者に関わるスタッフ同士の連携についてはいまだそれぞれの現場で試行錯誤されている段階である。この企画は、それに対する一つの答えとして、最近話題になっている『見える事例検討会』を紹介するために開催する。
概要	<p>認知症の困難事例を、マインドマップ®をもとに事例検討用に開発した「見え検®マップ」テンプレートを使用し、多職種で多面的に検討することが、『見える事例検討会®』である。今回は最初に『見える事例検討会®』とマインドマップ®についての説明を行った後、今動いている事例についての検討会を、6つのブースで同時に開催する。事例は開催者側で用意し、検討会の参加者は事前に募集をする。通常は医療者・介護関係者のみならず、地域のボランティア、民生委員、家族の会の方なども参加している検討会のため、認知症に関する詳しい知識がなくても参加することができる。</p> <p>全国の活動の様子はこちらをご覧ください。https://www.facebook.com/mierujirei。</p>